

平成 30 年度  
施 政 方 針





# 施政方針

## ～ 新たな時代を拓くチャレンジ～

### 【平成 30 年度の都市経営の基本的考え方】

平成 30 年度の当初予算案並びに関連議案のご審議をお願いするに当たりまして、都市経営の基本的考え方と予算の概要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

#### ◆はじめに

「浜松は本州最後の楽園である」

これは、豊かな環境のもとでワーク・ライフ・バランスを実現できる本市に魅かれ、移り住んだ市民の方の言葉です。

本市は、国土縮図型政令指定都市と称されるなど、山、湖、川、海などの恵まれた自然と多様な産業が共存する都市です。冒頭の言葉は、こうした特性を持つ本市に対して、多様な価値観やライフスタイルを包摂できるような無限のポテンシャルを持つ、オンリーワンの都市として高い評価をいただいたものと受け止めております。

少子高齢化及び人口減少、経済の停滞と厳しい行財政運営、そして東京一極集中と地方の衰退。我が国ではここ数十年、こうした課題の解決に向けた「改革」の必要性が叫ばれ続け、国と地方で数多くの政策が実行されてきました。しかし、平成 30 年を迎えた今、堺屋太一氏が約 20 年前に予測小説『平成三十年』の中で描いた、抜本的な変革を先送りしたことで、課題の十分な解決に至らず、環境変化への対応に立ち遅れた我が国の姿が、現実のものになろうとしています。

現在国を挙げて進めている地方創生の取り組みについても、各自治体が成果をいかに上げるかが一層重要となっています。その取り組みは、必ずしも一朝一夕で大きな成果が現れるものではありませんが、自らの強みや独自性をどのように発揮していくか、その真価が問われています。

こうした中、本市では、平成 29 年度において「未来をつくる提案・行動」を掲げ、総合戦略に掲げる 3 つの基本目標に基づき、どこにも劣らない地域の魅力や資源をオール浜松の知恵を結集して新たな提案に磨き上げ、積極果敢に取り組んでまいりました。

#### ◆平成 29 年度の振り返り

若者の生活基盤の安定では、地元産業力の強化による魅力的な雇用の創出に努めました。

<sup>かなめ</sup>要となる地域産業力の強化に向けて、第三都田地区工業用地の分譲を実施したほか、浜松商工会議所及び浜松地域イノベーション推進機構とともに「日本一の起業家応援都市 浜松」を宣言し、東京事務所内に設置した「はままつ首都圏ビジネス情報センター」による企業誘致等を積極的に進めました。また、ザザシティ浜松中央館に「はままつトライアルオフィス」を開設するなど、ベンチャー企業の誘致・集積による「浜松バレー」実現に向けた取り組みを進めました。加えて、ウェブサイト「浜松就職ナビ JOB はま！」での情報発信のほか、「はままつ UIJ サポート・コーナー」の開設や「浜松 JOB マッチング面談会」の実施など、UIJ ターンの支援に取り組みました。

農水産品等の海外販路の拡大については、浜松市やらまいか大使である和久田哲也氏のご協力のもと、シンガポールにて開催された「エピキュリアンマーケット」に参加し、本市の食材を使用したメニューによる PR を行ったほか、香港で開催された「Food Expo 2017」に出展するなど、アジアを中心に取り組みました。林業については、東京オリンピック・パラリンピック関係施設への天竜材供給に向けた活動に加え、森林組合、製材・加工、木材流通などに係る事業者の連携のもと、林業・木材産業の成長産業化に向けた取り組みを開始しました。

このほか、ワーク・ライフ・バランスの推進や女性の活躍支援を通じ、誰もが活躍できる社会の実現に向け、「NAOTORA 女性サミット」を開催し、官民における機運醸成に努めました。

子育て世代の応援では、結婚・妊娠・出産・子育てを通じた切れ目のない支援に取り組みました。

待機児童の解消に向け、引き続き認定こども園や認可保育所、放課後児童会の整備・拡充に加え、事業所内保育所や企業主導型保育事業の設置促進など、官民連携のもと更なる取り組みを進めました。また、若い世代の結婚の希望をかなえるため、独身の子を持つ親向けのセミナーの実施など婚活イベントを拡充し、未婚化・晩婚化の対策を進めました。

教育については、子どもたちが持つ無限の可能性を伸ばす特別課外講座として、産学官連携で小学生を対象に実施している IT キッズプロジェクトを中学生まで拡大するとともに、学校・地域・保護者が連携・協働して学校運営を進める「コミュニティ・スクール」の推進モデル校を 8 校に増やしました。また、小中学校普通教室へのエアコン設置に向けた調査検討に着手するとともに、不登校児童生徒への対応として適応指導教室を増設しました。

人口減少時代を見据えたまちづくりでは、市内外の人を引き寄せる都市の魅力を生み出し、高めるため、日常の豊かさを実感できるまちづくりに注力しました。平成 29 年はまさに「直虎イヤー」として、大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放送に合わせ、浜松が「井伊の赤備え」一色に染まりました。「おんな城主 直虎推進協議会」を中心に、オール浜松で取り組んだことで、大河ドラマ館の入館実績はもとより、井伊家ゆかりの史跡、施設等に多くの来場者を迎えるなど、大河ドラマの効果を最大限発揮することができました。また、世界的に有名な中国の西湖、台湾の日月潭との連携のもと「湖サミット 2017 浜名湖」を開催するなど、本市の知名度やブランド力を飛躍的にアップさせることができました。

創造都市を推進する取り組みとしては、「サウンドデザインフェスティバル in 浜松 2017」を開催するとともに、高い専門性を持つ芸術文化の中間支援組織である「浜松版アーツカウンシル」設立に向けた準備を進めたほか、市民文化創造拠点施設の整備に向けた基本構想を策定しました。

また、多文化共生への取り組みとしては、東京オリンピック・パラリンピックに

おけるブラジル選手団の事前合宿誘致に係る覚書を締結したほか、文化的多様性を強みとする都市で構成する「インターカルチュラル・シティ・ネットワーク」にアジアの都市として初めて加盟するなど、多文化共生都市としての積極的な施策を展開しました。

人口減少社会への対応としては、立地適正化計画の策定に向けて引き続き取り組んだほか、区の再編に向けては、市議会での議論とその内容を紹介した区政だよりの発行等により、市民の皆様のご理解とご協力のもと検討を進めてまいりました。

#### ◆平成 30 年度に向けて

平成 30 年は、日本が近代化に向けて歩みを始めた明治元年から起算し、満 150 年の節目となります。

本市にとってこの 150 年間は、県庁所在地ではなく大都市にも近接しない一地方都市でありながら、積極果敢な進取の気風「やらまいか精神」のもと、国内有数の産業都市として数多くのリーディング企業を生み出し、自律的な発展を遂げてきた輝かしい歴史そのものです。

現在、我が国は、人口減少や少子高齢化、更には IoT や人工知能（AI）などによる第 4 次産業革命の進展等に伴い、明治維新に匹敵するほどの急激な社会環境の変化に直面しています。こうした中であって、新たなフロンティアを異次元の範囲とスピードで切り拓いていくためには、何より失敗を恐れず、社会全体で試行錯誤するプロセスが重要となっています。

歴史的な転換点であり、私にとって 3 期目の集大成の年となる平成 30 年度を迎えるに当たり、「先人から引き継ぐ進取の気風を発揮し、様々な技術や人材を貪欲に吸収・活用しながら、新たな時代を拓く」。こうした覚悟と気概を持って、長期的な視野に立ち、揺るぎない理想の未来の実現に向けて、総合戦略の推進に全力で取り組んでまいります。

#### ◆若者がチャレンジできるまち

基本目標の 1 つ目「若者がチャレンジできるまち」では、「ものづくりのまち」

として発展を遂げた本市の強みを活かし、産業力の強化を図ることで、魅力的な雇用の創出や働きやすい環境づくりに努め、若者を始めとした子育て世代の生活基盤を安定させ、若者世代の転入促進等による社会移動の均衡を目指します。

主には、「浜松バレー」実現に向けたベンチャーを中心とした企業誘致の推進、創業や海外展開の支援などにより地元産業の集積・強化に取り組むとともに、農水産物の高付加価値化や販路開拓、FSC 森林認証制度をベースとした林業成長化の推進に取り組みます。

また、UIJ ターン就職や女性活躍の促進などによる労働市場の活性化に加え、ワーク・ライフ・バランスの推進により、だれもが活躍できる労働・雇用環境の整備に努めてまいります。

#### ◆子育て世代を全力で応援するまち

基本目標の2つ目「子育て世代を全力で応援するまち」では、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援とともに、次代を担う子どもたちへ浜松の素晴らしさを伝えることや、子どもたちが健やかに成長できるまちを目指します。

主には、官民連携を図りつつ、待機児童解消に向けて保育人材の確保を含む保育の提供体制の拡充や独身男女の出会いの場の提供などに取り組みます。

また、不登校児童生徒の支援を充実するとともに、進学などにより浜松を一時的に離れても、浜松に戻りたい、浜松で働きたいと思えるように子どもたちの愛郷心を<sup>はぐく</sup>育んでまいります。

#### ◆持続可能で創造性あふれるまち

基本目標の3つ目「持続可能で創造性あふれるまち」では、直虎のレガシーの継承を図りつつ、本市の持つ都市の魅力を高め、発信し、市内外の人を引き寄せるまちづくりを進め、持続可能な都市を目指します。

主には、官民連携のもと、DMO を形成し、世界に誇る観光地域づくりを推進するとともに、ビーチ・マリンスポーツを始めとした浜松・浜名湖の魅力を国内外へ発信するプロモーションを総合的に展開します。

また、コンパクトでメリハリの効いた拠点ネットワーク型都市構造を形成するとともに、総合計画における基本計画の検証や区制度の検討を進めます。広域連携の推進についても、三遠南信地域、遠州地域の核として、県境を越えた圏域の自立と発展を目指して取り組んでまいります。

### 【平成 30 年度予算編成方針】

次に、平成 30 年度の予算編成でございます。

平成 30 年度は、地域経済の緩やかな回復基調等を背景に、都市の将来像の実現に向け、総合計画や総合戦略に掲げた諸施策を積極的に推進するものとししました。

持続可能な財政運営に向け、歳入確保を徹底するとともに、事業の見直し、選択と集中による限られた財源の有効活用により、真に必要な施策、直面する行政課題に重点化した上で、規律ある財政運営を堅持した結果、市債残高は着実に中期財政計画の計画値を達成しつつ、予算規模は一般・特別・企業会計の総額で 6,115 億円となります。

### 【平成 30 年度の分野ごとの重点施策と主な事業】

こうした予算編成方針を踏まえ、浜松市未来ビジョン第 1 次推進プランに定めた 7 つの分野に基づき、平成 30 年度に実施する分野ごとの重点施策について申し上げます。

#### 1：産業経済

1 つ目は「産業経済」です。

持続可能な地域経済の確立に向け、産学官金が連携し、ものづくり産業の高度化に加え、輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業の育成を図るとともに、地域の魅力向上はもとより、農林水産業における多様な担い手の創出と多彩な農水産品の高付加価値化、官民を挙げた天竜材の「地産地消」、「地産外商」などに取り組みます。

「浜松バレー」の実現に向けて、はままつ首都圏ビジネス情報センターにおいて



ベンチャー企業と本市企業のマッチングイベントを開催するとともに、「舞阪サテライトオフィス」の開設やベンチャーファンドの研究等を進めます。また、本市の基幹産業である輸送用機器産業について、浜松地域イノベーション推進機構を中心にEV シフト対応支援を新たに実施するほか、自動運転の実証研究等を進めます。第三都田地区工場用地の分譲や企業立地セミナーの開催、首都圏を中心とした企業誘致等についても引き続き精力的に取り組めます。

新事業展開に意欲的な中小企業と博士人材をマッチングするほか、UIJ ターンに係るアドバイザーを新たに設けるなど、新卒者及び転職者に対する UIJ ターン就職を促進します。また、女性の就労支援等を進め、地域産業を担う人材の確保に努めます。

海外の活力を本市の産業に取り込むビジネス展開の支援では、楽器分野をはじめ、高機能・高付加価値なものづくりを展開する企業について、欧米の大規模な見本市への参加を引き続き支援し、国際的な地位を高めるとともに、販路拡大を図ります。

農水産物の販路拡大に向けては、台湾で開催される国際食品見本市「フード台北」に新たに<sup>セイバー ジャパン</sup>出展するほか、昨年末の国の「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」の認定を機に、外国人向けの「食×農体験プログラム」モデル事業等を実施するなど、国内はもとより海外からの誘客活動を積極的に展開します。林業では、FSC 森林認証制度に基づく森林管理を引き続き進めるとともに、事務所等における天竜材の使用に対する支援を新たに実施するほか、天竜材の新規ユーザー開拓などに取り組めます。

観光では、平成 31 年のデスティネーションキャンペーンに向け、旅行会社等を対象としたプロモーションや DMO を核とした観光地域づくりを進めるとともに、中国や台湾を始めとしたアジア地域に重点を置いた取り組みを進めます。また、市中心部に出世の街及びウォーター・マリンスポーツに関する魅力発信拠点施設を整備するなど、浜松・浜名湖の観光資源の魅力を発信することで、国内外からの誘客を図ってまいります。

## 2：子育て・教育

2つ目は「子育て・教育」です。

地域社会のサポートにより仕事と子育てを両立し、生きる力を身に付けた子どもたちが健やかに育つ環境づくりを推進します。

保育所等利用待機児童の解消に向けては、引き続き認可保育所等の整備による定員増を図るとともに、保育士の確保策を拡充します。

子育て支援では、子育て支援ひろば事業等により、妊婦や子育てに対する親の不安軽減を図ります。子どもの貧困対策については、経済的困難を抱える家庭の支援に向け、学習支援の拡充等を図ります。

学校教育では、コミュニティ・スクールについて、将来的な全校本格実施を目指して推進モデル校を、また、不登校児童生徒への支援について、校内適応指導教室及び適応指導教室を、それぞれ拡充します。

小中学校普通教室へのエアコン設置について、設置手法の検討をはじめ実施に向けた準備を引き続き進めるとともに、すべての市立幼稚園の保育室については、エアコンを設置します。また、教職員の多忙化解消等については、新たに校務アシスタント及び部活動指導員を配置します。

放課後児童会について、施設整備や学校普通教室の活用等により拡充を図るとともに、市民団体や民間の活動を支援することで、放課後の子どもたちの居場所づくりを進めてまいります。

### 3：安全・安心・快適

3つ目は「安全・安心・快適」です。

市民一人ひとりが、災害、犯罪、事故などの危険から自分の命と財産を自ら守る意識を高めるとともに、人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくりを進めます。

第4次地震被害想定を踏まえた防災・減災力の強化策としては、市民自らが防災について考え、備え、行動する意識を高めるため、北小学校跡地を活用した防災学習施設を整備するとともに、新たな災害情報伝達手段の構築に着手します。また、沿岸域で整備を進める防潮堤については、一部区間のかさ上げを実現することで、

想定される最大津波による被害の減災効果をより大きなものとし、市民の更なる安全安心につなげます。

拠点ネットワーク型都市構造の実現に向けた取り組みとしては、立地適正化計画を策定し、都市機能及び居住誘導区域における誘導施策を進めるとともに、社会経済情勢の変化に対応した都市計画マスタープランの見直しを進めます。また、来年度内の供用開始を目指す（仮称）館山寺スマートインターチェンジへのアクセス道路や、天竜川駅の南北駅前広場の整備により、交通結節点の機能強化を図ります。

このほか、平成 32 年のフラワーパーク開園 50 周年に向けて、施設の修繕や改修を行い、来園者の安全確保と魅力の向上に努めてまいります。

#### 4：環境・エネルギー

4 つ目は「環境・エネルギー」です。

浜松版スマートシティの実現に向けては、浜松市スマートシティ推進協議会による実証プロジェクト等を官民連携で進めるほか、家庭における活動として「創エネ」、「省エネ」、「蓄エネ」を推進するため、引き続き太陽光発電システムを始めとした設備導入を促進します。加えて、太陽光に続く分散型エネルギーの導入を促進するため、風力発電のゾーニングに係る調査等を進めます。

また、3R を推進し、ごみの減量化を図るとともに、温暖化対策として市有施設の LED 照明の導入促進や省エネ家電普及に向けたキャンペーンを行います。

天竜区に整備する新清掃工場及び新破碎処理センターについては、平成 36 年度の稼働に向けて、造成工事に着手いたします。

#### 5：健康・福祉

5 つ目は、「健康・福祉」です。

地域における支え合いの仕組みづくりを進めるとともに、健康寿命の更なる延伸を目指します。

地域福祉の推進に向けては、新たな地域福祉計画を策定するとともに、コミュニティソーシャルワーカーの配置を進めます。また、すべての高齢者が住み慣れた地

域で安心して過ごすことができるよう、地域包括支援センターにおける相談支援体制の充実を図るとともに、認知症対策を拡充します。

障がいのある方の支援としては、相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを設置するとともに、グループホームの整備を進めます。また、重度心身障害者医療費助成等を現物給付に見直すことで、負担の軽減を図ります。

安心して子どもを産み育てやすい環境づくりとしては、新たに産婦健康診査を実施し、産後の初期段階における母子に対する支援を強化します。

生活習慣病に対する取り組みとしては、健康ウォーキング事業を見直し、より全身の運動効果が高いノルディック・ウォークの普及を担う人材を育成することで健康増進の普及促進を図ります。

地域医療体制の整備に向けては、浜松医療センター新病院建設に向けた取り組みを進めるとともに、平成31年1月に看護専門学校を新築移転いたします。

## 6：文化・生涯学習

6つ目は「文化・生涯学習」です。

音楽を始めとした様々な分野で新たな文化や産業の創造を目指すとともに、多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる生活の充実などを実感できる環境づくりを進めます。

創造都市の推進については、浜松版アーツカウンシルを設立し、市民が主体となった文化活動の活性化を図るとともに、2020文化プログラム推進事業として「(仮称)歌と踊り響きの国際音楽祭 in 浜松 2020」開催に向けた実行委員会を立ち上げます。

音楽文化発信・交流については、「第10回浜松国際ピアノコンクール」や「第20回アジア・太平洋吹奏楽指導者協会大会」を開催し、「音楽の都・浜松」の取り組みを世界に向けて発信します。

市民文化創造拠点施設の整備について引き続き準備を進めるとともに、次代の音楽文化を担う人材育成や市民の音楽活動の場を提供するため、(仮称)市民音楽ホールの新築に向けた設計を進めます。

スポーツの振興については、官民連携によるビーチ・マリンスポーツ推進協議会のもと、「ビーチ・マリンスポーツの聖地」を目指した事業化計画の策定等を進めるとともに、ラグビーワールドカップ 2019 の公認キャンプ地誘致、東京オリンピック・パラリンピックにおけるブラジル選手団の受け入れに向けた体制の構築や、共生社会ホストタウン推進に向けた取り組みを進めます。また、遠州灘海浜公園への県営野球場の建設や四ツ池公園陸上競技場の整備についての協議を進めます。

文化遺産の保全・活用については、国の文化審議会が二俣城跡及び鳥羽山城跡を国指定史跡に答申したことを受け、歴史を活かしたまちづくりを進めます。

浜松科学館については、平成 31 年 7 月のリニューアルオープンに向け、展示設計や展示製作を行ってまいります。

## 7：地方自治・都市経営

7つ目は「地方自治・都市経営」です。

市民協働によるまちづくりについては、コミュニティ担当職員の配置等により地域コミュニティ活動の活性化を引き続き図るとともに、新たに和地協働センターの管理運営業務を地区コミュニティ協議会に委託します。

中山間地域の振興については、ドローン・AI の利活用に向けた連携と協力に関する協定に基づき、佐久間地域における医薬品運搬の本格運用に向けた取り組みを進めるとともに、都市部と中山間地域との交流を促進します。

国際化施策の推進については、新たな国際戦略プランを策定し、多文化共生都市ビジョンと両輪で各種施策を展開します。また、外国人市民の定住化や多国籍化に対して、国籍や母国語を問わず広く伝達が可能な「やさしい日本語」を活用した情報提供を促進するとともに、タブレット端末によるテレビ電話機能を活用し、タガログ語や中国語などの多言語通訳環境を整えます。

広域行政の推進については、「三遠南信流域都市圏の創生」をテーマに新たな三遠南信地域連携ビジョンを策定します。

就任以来最大の政策課題である行政区の再編については、基礎自治体としての自律した持続性と住民に身近なサービス提供体制の両立を目指し、未来を見据えた新

たな自治モデルとして、是非とも実現したいと考えています。そのため、市民の皆様のご理解とご協力のもと、年度内の再編決定に向け、不退転の決意で取り組んでまいります。

### 【おわりに】

明治の啓蒙思想家であり近代日本のリーダーの一人である福澤諭吉先生は、開国と文明開化による社会の大変革の中にあつて、「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」という言葉を著しました。その意図するところは、およそ世の中の物事は、進歩しないものは必ず退歩する。退歩しないものは必ず進歩する。進歩も退歩もなく、そのままのところに留まる者はありえないのが道理であるというものです。

近年、耳目を集める「EV ショック」の言葉に象徴されるように、時として私たちは、新たな技術革新がもたらす未来に不安を感じ、生業なりわいや生活にもたらす負の影響に注目しがちです。しかし、そもそも技術革新は、これまで不可能であったイノベーションと社会課題の解決を可能とし、あらゆる人々や産業に新たなチャンスをもたらすものであるはずです。

先が見通せない中にあつて、立ち止まるのではなく、将来の新たな可能性を信じて進み続けるのが、私たち浜松市民のアイデンティティです。「やらまいか精神」のもと、今こそオール浜松で、夢、希望、そして情熱をもって新たな時代への歩みを力強く進めることで、人口急減・超高齢化を克服し、都市の将来像「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を着実に実現してまいります。

以上、平成 30 年度の施政方針を申し上げます。議会におかれましては、十分にご審議いただき、予算案並びに関連する議案につきまして、ご議決賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 30 年 2 月 27 日

浜松市長 鈴木 康 友





浜松市

**やらまいかスピリッツ!**  
創造都市・浜松